

◎ミッション2030◎ ニュースレター VOL.1

# [新しい協働]フォーラム

第1回「みんなで宣べ伝えよう—教会の『広報』について考える—」

イグナチオ教会では2017年度から「ミッション2030」に取り組み、「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」という各柱で、順次ワークショップを行ってきました。

今年度は「新しい協働」をテーマに、司祭、修道者、信徒の区別なく連携していくことを目指して、教会活動を広く見直すためのフォーラムを全6回の予定で開催いたします。

第1回目フォーラムが2021年5月9日(日)に行われ、教会の広報に携わる8つのグループが活動内容、課題、問題意識などを報告し、発表後にはオンライン参加の皆さまとともに分かち合いが行われました。

## 英神父さまのお話

シスター大原のリードによる聖歌「あなたのいきを」(典礼聖歌5番)とお祈りに続いて、当教会主任司祭である英神父さまの講話が行われました。

英神父さまは「マタイ福音書25章1~13節」を朗読した後、次のように述べられました。

「マタイ福音書の25章は『世の終わり』についての話ですが、世の終わりとは『危機の時代』ということです。キリスト教が本当に必要とされるのは危機の時です。危機の時に教会が、私たち一人ひとりが、灯火を灯せるかどうか問いかけてられているのです。

今日のフォーラムは教会の広報がテーマですが、広報とはまさに『灯火を灯す』ということです。この危機下に私たちはどうやって灯火を灯していくのか。どのように協働しながら灯火を灯し続けていけるのか。それを各々が自問し、アイデアを出し合いながら、考えていきたいと思っています。

今日はちょうど『世界広報の日』に当たります。その日に広報に関する話し合いができるということ

は、これが神の御旨にかなっているということに他ならないでしょう。

そうしたことを踏まえて、今日は考えて頂きたいポイントが3つあります。

- ① キリスト教を知らない方々、コロナ禍で苦しみながら教会に来られない方々に対して、どのような広報活動ができるか
- ② 教会に集まれない状況下での信徒のつながり作りに、広報活動をどのように活かしていくか
- ③ インターネットを使えない方々に対して広報の側面からどのようにアプローチするか

社会や教会のあり方が大きく変化し、教会や信徒のつながりも別の次元に入っています。その中で暗闇にいる方々に灯火を灯せるような広報のあり方を、皆で一緒に探していきましょう」

## 広報関連グループの報告

### 【美術部(旧・広報グループ)】

教会内外に向けて情報を正確に伝えることが使命。具体的には、ポスター・チラシ・看板など掲示物の制作と掲示、クリスマスやイースターのカード作成、掲示板の管理、教会フェイスブックの配信などを担当している。目下の悩みは、教会に来られない日が多い中、掲示物の扱いをどうするか。また今後、他グループと連携して画像等の共有を進めていきたい。

### 【教会案内ツアー】

第3日曜日の午前に2回、ガイド付きで教会内を案内している。信徒だけでなく、プロテスタントの方、外国人、旅行会社ツアー参加者などさまざまな方が参加。コロナ禍でリアルな活動ができないため、今後はバーチャルツアーを検討している。

## ◆次回予告◆

「新しい協働フォーラム」第2回は、

2021年7月4日(日) 13時~15時の予定です。

テーマは<教会の「福祉」にかかわる活動を考える(仮題)>。

教会の福祉関連活動を担当しているグループが、活動内容や課題などを報告します。詳細、参加方法などは教会ホームページ、ポスターなどでご確認ください。大勢の皆さまのご参加をお待ちしています。

### 【教会報「マジス」】

教会報の第一号が発行されたのは1949年。今月は715号となった。記事の作成と編集は現在、7人で担当している。先月号から新たな試みとして、信仰生活に関する俳句や川柳などを投稿して頂く「イグナチオ連壇」をスタートした。信徒が参加する教会報を目指している。

### 【教会ホームページ】

教会事務室からのお知らせを発信している。具体的には、年間行事予定に沿った活動、主任司祭からのお知らせ、事務室に問い合わせの多いものなどを中心に適切なタイミングで掲載することを心がけている。現在は、モバイル端末により適したものになるように改修を進めている。

### 【新しい協働SNS】

2020年8月、コロナ禍で教会に来られない方々に向けての情報発信を目指して、ツイッターとインスタグラムを使った配信を開始した。写真チームと協力して旧聖堂の写真に掲載したり、聖歌隊の協力を得て聖歌の配信なども行っている。広く他グループと協働し、充実したコンテンツ作りを計りたい。

### 【ウェルカムテーブル】

教会にはじめて来られた方々を温かく迎え、教会内を案内したり、ミサと一緒に与るなどの活動を行っている。コロナ禍になりグループミサが始まったが、グループに参加することが困難な方々も多いため、その取りまとめも行うようになった。やるべきことは多いが、何をどこまですべきか、本当に必要なことは何なのかの見直しが必要とも感じている。

### 【写真チーム】

教会行事を記録保存するための活動としてスタートした。主要な典礼や行事の撮影の他、カレンダーの作成、教会祭バザーでの頒布なども担当している。写真や映像が持つ力は信徒の励みになるので、他グループと積極的に連携を図り、情報発信することを目指している。データの保管や共有をスムーズに行うための方法を検討中である。

### 【五輪対応プロジェクトチーム】

五輪開催を視野に、海外や他地域からの観光客を温かくおもてなしすることを目指して2020年2月にグループ化し、映像・展示・サービスの3つのカテゴリーに分かれて活動している。五輪後は当活動を土台に「ウェルカムセンター」へ発展することも検討中。いずれにしてもコロナや五輪の状況が不透明なのが悩みである。

### 信徒の分かち合いから

各活動グループの報告の後、インターネットで参加した約50名の信徒が小グループで分かち合いを行いました。今後の広報活動の参考になる有意義な意見や感想を数多く頂くことができました。いくつかをご紹介します。

「教会の広報活動は常に福音宣教の意識を持ち、同時に、祈りの果たす役割が大きいことも忘れてはならない」

「教会広報の重要性を改めて認識した。今後は情報を受け取ることが困難な方々(とくに高齢者)に配慮し、具体的なアプローチ方法を検討してほしい」

「スマホやパソコンの使い方をマジスでコラム連載したり、講座を

開設してはどうか」

「デジタル派にもアナログ派にも満遍なく情報を行き渡らせることが必須である」

「当教会は外国人信徒も多い。外国人と協力を図った広報活動に期待している」

「ホームページやSNSなどを使った情報発信が進んだのは有難い。その反面、情報過多で必要な情報になかなか辿り着けないことがある。情報の整理もお願いしたい」

「コンテンツを見た人の興味や関心を、どのようにキリスト教へと結びつけていくか。外向けの発信方法を考えていく必要がある」

「教会のあり方や福音宣教は、人と人のつながり、草の根活動的なものであるはず。インターネットでの情報発信は伝達という面では有効だが、本来の教会のあり方とは相いれないものではないかとも感じている」

「教会に来られない方々のためのお届けボランティアを募り、グリーティングカードなどの郵送などができないか」

### 英神父さまのまとめ

「私たちが発信する情報は単なるお知らせではなく、『福音』でなくてはなりません。教会観が変わっていくことも考えられる中で、リアルなつながりを大切にしながら様々な媒体を活用し、『福音』を知らせることができるよう皆で工夫していきましょう」

